

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)藤沢新物流センター新築工事	階数	地上3F
建設地	藤沢市大字円行二丁目6番1,2,3	構造	RC造
用途地域	工業専用地域、防火指定なし	平均居住人員	169 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,640 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年9月 予定	評価の実施日	2015年5月13日
敷地面積	24,808 m ²	作成者	清水建設㈱
建築面積	13,536 m ²	確認日	2015年5月18日
延床面積	33,716 m ²	確認者	清水建設㈱



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		その他
総合 敷地境界ライン通りに緑地の配置を行い、周辺環境に配慮した配置計画を行います。このような計画を行う事により、周辺建物へ圧迫感を軽減でき、地域環境へ寄与できると考えています。		周辺建物である「いすゞ藤沢工場」との緑地計画などの調和を図り、地域になじんだ建物計画を行います。
Q1 室内環境 事務所空間におきましては、中間期においては自然換気ができるように窓の開閉ができる機構としています。倉庫におきましては、自然換気風の流れをスムーズに行える様に、送風ファンを倉庫内に設け快適性を目指しています。	Q2 サービス性能 各階、休憩室と喫煙室(2室/フロア)を設け、さらに天井高さ2.7mにおける作業空間の快適性を目指しています。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地周辺に緑地を配置します。
LR1 エネルギー 屋根に太陽光発電を計画しています。	LR2 資源・マテリアル トイレによる超節水型の便器の採用、ノンフロン材料を積極的に採用します。	LR3 敷地外環境 断熱性及び遮音性の高い外壁の採用、屋根においては遮熱塗装を施した材料を採用し、敷地外周辺に配慮した計画とします。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される